

## 利尻島における鳥類の新分布の記録 (2016 年)

田牧和広

〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦

### Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido in 2016

Kazuhiro TAMAKI

Numaura, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

**Abstract.** Two bird species, *Eremophila alpestris* and *Muscicapa ferruginea*, were newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido in 2016.

利尻島の鳥類相は、小杉 (2000) によると 255 種がこれまでに記録され、その後も様々な報告が追加され (田牧, 2001; 田牧ほか, 2003; 大野・小杉, 2007; 佐藤ほか, 2007; 黒川・小杉, 2010; 風間ほか, 2013; 田牧, 2016, など), 2016 年 3 月までの確認種数は 318 に上る。筆者は 2016 年 4 月から 10 月にかけて、同島においてこれまで観察記録がなかったハマヒバリとミヤマヒタキを確認したので、ここにその詳細を写真とともに報告する。

観察記録は、観察場所、観察年月日、個体数の順に記し、種の配列、和名及び学名については日本鳥学会 (2012) に従った。なお、小杉和樹氏 (日本

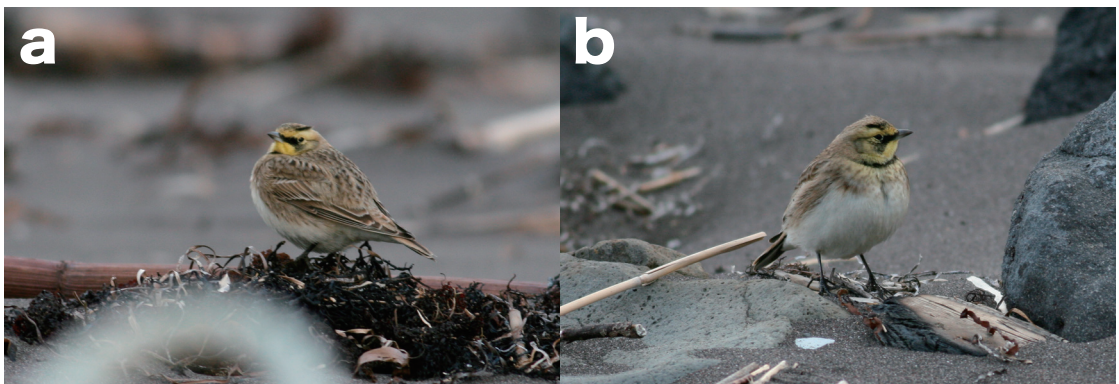
野鳥の会道北支部) には同定の確認のほか、本原稿の校閲をいただいた。さらに本稿取りまとめの際、佐藤雅彦氏 (利尻町立博物館) には大変お世話になった。これらの方々に心より感謝申し上げる。

#### 01. ハマヒバリ (Fig. 1)

*Eremophila alpestris* (Linnaeus, 1758)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2016.x.23-30, 1

ハマヒバリは、ユーラシアの極地地方・モロッコ・トルコから中国北部、北アメリカの極地地方からメキシコ・コロンビアで繁殖し、北方のものは冬



Figures 1. *Eremophila alpestris*. Numaura, Rishiri Island. October 23, 2016.

季に南下し、日本では稀な冬鳥として観察される(五百沢ほか, 2014)。北海道内では根室(1988年12月), 紋別豊頃幌岡(1997年3月), 礼文島(2010年11月), など他に数例の記録があるが(藤巻, 2012), 利尻島からはこれまで本種の観察例はなかった(小杉, 2000, ほか)。

筆者は2016年10月23日午後3時半頃, 利尻島南東部の利尻富士町沼浦地区にある砂浜の海岸で, ヒバリ2羽およびタヒバリ2羽と共に, ハマヒバリと思われる個体1羽(Fig. 1)を見つけた。この個体から20~50mの距離をおき, 観察と写真撮影を30分ほど行った。大きさはヒバリとほぼ同じに見え, 黒い頭側線があり, 眼先から耳羽にかけて薄黒く, 額と眉斑と喉は黄色であった(Fig. 1a)。体の上面は茶褐色で黒い縦斑があり, 初列風切の突出が見られた(Fig. 1a)。嘴は青灰色で, 胸には黒帯があり, 下胸は淡褐色, 体下面は白く, 足は黒かった(Fig. 1b)。これらの点から, 本個体はハマヒバリと考えられた(真木ほか, 2015; 高野, 2015)。なお, 本個体の頭側線は冠羽状でなく, 耳羽もはっきりと黒くないので冬羽への移行個体と思われた。

観察が行われた砂浜海岸は, 海藻や流木が漂着・散乱しており, 所々草本が生えている。本個体は歩きまわりながら虫や種子をついばんでいたほか, 強風のなか, 風上に向かってじっとしている事もあった。時々, 「ピリッ」と鳴いて20~30mほど飛び上がり, 50m位離れたところに降りることもあつた。

た。この個体は同じ場所で30日まで観察された。

## 02. ミヤマヒタキ (Fig. 2)

*Muscicapa ferruginea* (Hodgson, 1845)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2016.iv.30, 1

ミヤマヒタキは, ヒマラヤ・台湾・中国で繁殖し, 台湾・中国南東部・ミャンマー・マレー半島などで越冬するヒタキ科の鳥である(五百沢ほか, 2014)。国内では, 鹿児島県平島から沖縄県と那国島までの南西諸島を中心に3月から5月の渡りの時期に記録されている(北沢ほか, 2016)。2014年5月25日の天売島(羽幌町)における観察例は, 同種の北海道初記録となったが(北沢ほか, 2016), 利尻島からはこれまで観察例はなかった(小杉, 2000)。

筆者は, 2016年4月30日午前9時半頃, 利尻島南東部の利尻富士町沼浦地区にあるオタドマリ沼で, ルリビタキ7羽, ノビタキ2羽, ハクセキレイ(亜種タイワンハクセキレイ)1羽とともに, ミヤマヒタキと思われる1羽(Fig. 2)を見つけ, その観察と写真撮影を行った。観察場所は沼の北側の遊歩道で, 高さ2mほどのノリウツギ, ダケカンバ, ヤナギ類などが見られる約30mほどの区間であった。ミヤマヒタキと思われる本個体は, これらの樹木の横枝から頻りに飛び立ち, 虫を採取しては元の枝に戻る行動が見られた。観察中, 鳥との距離は1~30mほどあったが, 筆者から1mの近距離



Figure 2. *Muscicapa ferruginea*. Numaura, Rishiri Island. April 30, 2016.

に来る事もあり、人をあまり恐れていないように感じられた。本個体の大きさは、同時に観察されたノビタキと同じであり、頭部は黒褐色、体上面は橙褐色、体下面は橙色を呈し、喉は白く、灰黒褐色の顎線が見られた。また、アイリング(困眼輪)は白く、嘴は黒褐色で、腰から上尾筒までは茶褐色、翼は黒褐色で、雨覆と風切の一部に橙褐色の羽縁が観察された。尾は黒褐色で、その羽縁は橙褐色を呈し、全体が黒褐色であるムギマキやノビタキの冬羽とは異なった。これらの点はミヤマヒタキの特徴と合致しており、本個体は本種の第一回夏羽と考えられた(五百沢ほか, 2014)。

天売島における本種の記録(北沢ほか, 2016)では、低気圧による強風などの偶発的な要因により同島に飛来した可能性が指摘されている。2016年4月27日頃に九州付近で発生した低気圧は、急速に発達しながら30日にかけて日本列島沿いに北上したことから(気象庁, 2016)、利尻島における本観察例においても、低気圧による天候変化がミヤマヒタキの通常の渡りのルートに大きな影響を与えた可能性がある。

#### 参考文献

藤巻裕蔵, 2012. 北海道鳥類目録改訂4版. 補遺. 極東鳥類研究会. 美唄. 78p.  
 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の野鳥550. 山野の鳥. 文一総合出版. 東京. 415p.  
 風間健太郎・宮本誠一郎・佐藤雅彦, 2013. 利尻島におけるチュウヒの観察記録. 利尻研究, (32): 51-52.

気象庁, 2016. 日々の天気図. 2016年4月. No. 171. ダウンロード, <http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/hibiten/index.html> (2016年10月3日参照).  
 北沢宗大・青木大輔・島崎 敦, 2016. 北海道天売島におけるミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea* の国内最北観察記録. 日本鳥学会誌, 65(1): 47-50.  
 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト: 150-155. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥. 北海道新聞社. 札幌.  
 黒川健一・小杉和樹, 2010. 利尻島におけるジュウイチ *Cuculus fugax* の初記録. 利尻研究, (29): 57-58.  
 真木広造・大西敏一・五百沢日丸, 2015. 日本の野鳥650. 平凡社. 788p.  
 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田. 438pp.  
 大野陽子・小杉和樹, 2007. 利尻島において観察されたシベリアムクドリ. 利尻研究, (26): 29-30.  
 佐藤里恵・小杉和樹・川崎康弘, 2007. 利尻島におけるイナバヒタキ *Oenanthe isabellina* の初記録. 利尻研究, (26): 51-52.  
 高野伸二, 2015. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂新版. 日本野鳥の会. 392p.  
 田牧和広, 2001. 利尻島における鳥類の新分布の記録. 利尻研究, (20): 29-34.  
 田牧和広, 2016. 利尻島におけるヨーロッパインズイとコウライウグイスの観察記録. 利尻研究, (35): 01-03.  
 田牧和広・杉村直樹・小杉和樹・佐藤雅彦, 2003. 利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録(2). 利尻研究, (22): 23-25.